

自己評価

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
安心・安全な学校づくり	<p>(全校レベル)</p> <p>I) 感染症予防、事故防止対策の徹底</p> <p>II) 各種の災害に備える防災対策の充実</p> <p>III) 即時の課題共有と解決策の立案・実践</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>①地域や行政と連携した避難訓練を実施し、防災対策の充実を図る。【環境課】</p> <p>②情報モラルに関する指導の充実改善を図るために、研修を計画的に実施する。【環境課】</p> <p>③新型コロナウイルス感染症対策について、全校集会や学部集会を通じて啓発活動を行い、健康に気をつけて学校生活を送ることができる。【生活課】</p> <p>④不審者対応訓練を実施し、生徒や教員の安全や危機管理についての意識を高めることができる。【生活課】</p>	<p>評価指標</p> <p>I) 新型コロナウイルス等の感染症防止対策や事故防止対策を学校全体で取り組み、有事の際でも迅速かつ適切に対応することができる。</p> <p>II) 学校防災計画や不審者対応マニュアル等を見直し、改善を図るとともに、計画的に効果的な訓練等を実施することができる。</p> <p>III) 危機管理体制を充実改善し、課題が確認されたときには、管理職や担当教員を中心に迅速に対応し、解決・改善を図ることができる。</p> <p>①-1 大規模災害に備えて地域と合同の避難訓練を1回以上実施する。</p> <p>①-2 地震・火災・土砂災害の防災訓練を年4回以上実施し、適宜学校防災計画や防災カードの見直しをする。</p> <p>②職員研修等において情報モラルに関する研修や啓発を行う。年度末の調査において各割以上の教員が理解し実践できたと言える。</p> <p>③ 養護教諭からの保健指導を受け、集会を通じて児童生徒役員が中心となり手洗いうがいの節行等、感染症対策についての呼びかけを行い健康についての意識を高める。</p> <p>④ 地域の警察と連携を図り、訓練の実施や危機管理の話しを聞き、学校全体の課題として安全な学校づくりの推進に取り組む。</p> <p>活動計画</p> <p>I) 職員朝礼等で時宜を捉えて情報提供や啓発推進を図り、取組の検証を行う。また、対応マニュアルを整備するとともに、職員に十分に周知し、有事の際には迅速に対応できる組織作りを行う。</p> <p>II) 担当教員を中心にマニュアルや計画を見直し、様々な場面を想定した訓練等を計画的に行う。</p> <p>III) 課題について情報を速やかに収集し、課題解決策を複数の教員で検討し、迅速に改善や解決を図る。</p> <p>①-1 地域の役場や隣接する施設と連携して合同の避難訓練を計画・実施する。</p> <p>①-2 学校防災管理マニュアルに沿って南海トラフ地震臨時情報への対応等を追加する。</p> <p>②職員会議や職員研修等において啓発や研修を年間3回以上実施する。</p> <p>③-1 毎月の全校集会で感染症対策について、児童生徒役員が啓発活動ができるよう、養護教諭と計画を作成する。(毎月)</p> <p>③-2 各手洗い場に、手洗いの方法を掲示したり、ハンドソープや手指消毒液を設置する。</p> <p>④ 警察が不審者役になり、対応訓練を行い課題を見つけ、解決策を全教員で考える。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>I) 感染症防止対策を学校全体で講じることができ、感染を予防することができた。また、学校事故もなく安全に学校の教育活動に取り組むことができた。</p> <p>II) 学校防災計画や不審者対応マニュアルを見直し改善を図ることができた。また、計画的な訓練を効果的に実施することができた。</p> <p>III) 管理職や担当教員を中心に、新型コロナウイルス対策等について実情に合わせて対応を見直し、改善することができた。</p> <p>①-1 地域と合同の避難訓練を1回実施することができた。</p> <p>①-2 避難訓練を年4回実施することができた。防災計画等も見直しすることができた。</p> <p>②情報モラルの研修や案内を定期的に行うことができた。年度末の調査において各割以上の教員が理解し実践できたと言える。</p> <p>③ 感染症対策について、養護教諭から保健指導を行ったり、児童生徒役員からの呼びかけにより、手洗いうがいの節行、学校施設の消毒を行い健康についての意識を高めることができた。</p> <p>④ 不審者発見から児童生徒の安全確保、警察への連絡まで一連の流れの訓練を実施することができた。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>I) 情報提供や啓発等を積極的に推進するとともに、担当者を中心に対応マニュアルを見直し、職員会議等で周知を図ることができた。また、学校関係者に感染者が出た時には、迅速に対応し、感染を予防することができた。</p> <p>II) 地震津波・土砂災害・火災に関するマニュアルを災害毎にまとめ、緊急時に誰でも対応できるような資料等をまとめた。</p> <p>III) 学校の関係者が新型コロナウイルスに感染した際には、情報を速やかに収集し、組織的に対応することができた。また、その際の課題を次に活かすことができた。</p> <p>①-1 地域の役場や隣接する施設と連携して合同の避難訓練を9月に実施することができた。</p> <p>①-2 学校防災管理マニュアルに南海トラフ地震(大地震)への対応を追加することができた。</p> <p>②職員会議等で、横断的扱いや、私的なやりとり、情報資産管理管理等の情報モラルに関する研修を年3回行うことができた。</p> <p>③-1 毎月の全校集会で感染症対策について、児童生徒役員が啓発活動ができるよう、養護教諭と計画を作成することができた。</p> <p>③-2 各手洗い場に、手洗いの方法を掲示したり、自動で出るハンドソープや手指消毒液を設置した。</p> <p>④ 不審者対応、児童生徒保護、連絡係など全教職員が自分の役割を果たし訓練に取り組むことができた。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>①②今年度は防災を中心に避難訓練の実施や防災計画等の見直し、コロナ感染症についての項目を学校防災管理マニュアルに追加することができた。</p> <p>③コロナウイルスの影響が続く中、児童生徒が手洗いうがいの節行やマスクの着用、教員による学校施設の消毒等において、養護教諭からの保健指導や児童生徒会の呼びかけもあり、継続した取り組みを行うことができた。</p> <p>④警察が不審者役を行うことで緊張感を持って訓練を行うことができた。不審者への適切な距離感やさまざまな使い方を学ぶことができた。</p>	<p>計画的な避難訓練や不審者対応訓練等が適切に実施されており、毎年見直しもされている。感染症対策では、学校全体で感染防止対策に取り組み成果が見られた。情報モラル教育についても情報セキュリティについて学校全体で対策を共有しており、危機管理対策等も適切にできているようである。今後引き続き取り組んでほしい。</p> <p>①地域の人の避難場所と避難階段が重なっていたので、避難階段の周囲には集まらないよう周知する。</p> <p>②USBの紛失等がないよう危機管理について周知する。</p> <p>③ コロナウイルスの影響が続く中、現在行っている手洗いうがいの節行やマスクの着用、教員による学校施設の消毒等は引き続き行っていき、養護教諭からの保健指導や児童生徒会の呼びかけもより一層重要になってくる。そのために先生方に指導頂き児童生徒会が中心になって、健康に気をつけて学校生活を送ることができるよう取り組む必要がある。</p> <p>④不審者対応訓練については、これからも地域の警察と連携を図り実施していきたい。年1回の実施なのでより実践に近い形で行っていきながら、全教職員に対して緊張感を持ち、意識を高めるように働きかけていきたい。</p>
多様性を育むキャリア教育の展開	<p>(全校レベル)</p> <p>I) 本人中心の教育の実現</p> <p>II) 卒業後を見据えた指導内容の精選</p> <p>III) 教員の専門性、指導力の向上</p> <p>IV) ICT機器を活用した教育の推進</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>①自分でできることを増やし、自立して行動できる場面を増やし、自信につなげる。また、自分ではできないことや支援が必要な場面では適切に支援を要求する力を身につける。【小・中・高】</p> <p>②卒業後の進路先や生活を見据えて、自分の課題に気づき、目標達成に向けて取り組むことができる。【高専部】</p> <p>③教員の専門性、指導力の向上をめざして「個別の指導計画」の作成の手順や記入の仕方について全体周知を図る。【教務課】</p> <p>④ 児童生徒一人ひとりの自己肯定感の向上、支援を受けながらの自立を目指したキャリア教育(教育活動)の実践を行う。【進路課】</p> <p>⑤専門家によるアドバイスを受けた個別の事例について、校内で共有することで職員全体の専門性の向上を図る。【支援課】</p> <p>⑥ICT機器を活用した教育の推進を行う。【環境課】</p>	<p>評価指標</p> <p>I) ポジティブな行動支援を基本として、児童生徒の教育的ニーズを正確に捉えた授業実践等が教育活動全体を通して実施できる。</p> <p>II) 中学部におけるはたらく体験学習や高等部の就業体験等、高等部卒業後を見据えた活動を用いることができる。</p> <p>III) 全体研修や授業研修等を年間計画に従って実施し、専門性や指導力を向上させることができる。</p> <p>IV) GIGAスクール事業における情報端末等を活用した授業実践をすべての教員が実施することができる。</p> <p>①-1 個別の指導計画において、客観的なアセスメント等に基づく前期・後期の学期目標を3個以上設定する。</p> <p>①-2 アセスメントに基づいて立案した前期・後期の学期目標の評価が、「達成」「ほぼ達成」となる割合が75%以上となる。</p> <p>② 個別の指導計画の前期目標または後期目標に、実態把握検査から出た課題を一人につき2個設定し、その評価が「達成」「ほぼ達成」となる割合が70%以上となる。</p> <p>③-1 「個別の指導計画」の手引きを確認しながら、作成することができる。</p> <p>③-2 ケース会を円滑に行うことができる。</p> <p>③-3 管理職回覧を円滑に行うことができる。</p> <p>④-1 高等部では、就業体験の事前学習の一環として、年間各学年1回以上、進路課より進路に関する授業を開設する。</p> <p>④-2 中学部のはたらく体験学習が、高等部や卒業後の進路につながる活動であることを、写真や動画を使って見ることができると設定する。</p> <p>④-3 児童生徒の自己肯定感を高めるために、授業で実践できる取り組みや資料等を年3回以上教員に配布する。</p> <p>⑤ 社会人講師による指導やコンサルテーション事業等を活用し、生徒の実態把握や支援の共有を目指しつつ、教員の専門性の向上に繋げるために、直接指導を受けた教員だけでなく、校内全体で共通理解をする。</p> <p>⑥-1 タブレット等を使い、パソコン検定やとくしま技能検定に向けて計画的に授業を行う。</p> <p>⑥-2 リモート授業を年3回以上実施する。</p> <p>活動計画</p> <p>I) 個別の指導計画や個別の教育支援計画を有効に活用して教育活動を展開し、効果を上げる。</p> <p>II) 教員全体で、卒業後の進路先の情報や社会情勢等の動向を共有し、教育活動に活かす。</p> <p>III) 研修計画を全体で共有し、教員全員が積極的に授業参観や研修会に参加する。</p> <p>IV) ICT機器を活用した授業研修やタブレット端末に関する研修会を計画的に実施する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>I) ポジティブな行動支援に関するコンサルテーション研修を計画的に実施し、児童生徒の教育的ニーズを正確に捉えた実践を教育活動全体を通して実施することができた。</p> <p>II) 中学部のはたらく体験学習や高等部就業体験を効果的に実施し、高等部卒業後を見据えた活動ができた。</p> <p>III) 全体研修や授業研修を計画的に実施することができ、教員の専門性や指導力を向上させることができた。</p> <p>IV) GIGAスクール構想による情報端末を活用した授業実践が定着し、すべての教員が積極的に活用することができた。</p> <p>①-1 個別の指導計画において、客観的なアセスメント等に基づく目標を前期は3～8個、後期は3個～5個設定した。</p> <p>①-2 アセスメントに基づいて立案した前期の学期目標の評価が、「達成」「ほぼ達成」となる割合が59%であった。</p> <p>② 前期目標及び後期目標に、検査の結果から出た課題を一人2個～6個設定することができた。その評価について、「達成」「ほぼ達成」となった割合は、86%であった。</p> <p>③-1 「個別の指導計画」の手引きを活用し、記入の仕方等を確認して作成することができた。</p> <p>③-2 ケース会では、体験や文書の出しが少なく、会が円滑に進んだ。</p> <p>③-3 管理職回覧は、体験や文書等の修正が少なくなった。</p> <p>④-1 学級の実態に応じて、進路に関する授業を行うことができた。</p> <p>④-2 はたらく体験学習の一環として、進路担当より1回話しをする機会を設定することができた。</p> <p>④-3 毎月、校内人権の日を設定して人権に関する情報提供をした。また、年3回以上のポスターやチラシの配布や掲示、人権通信等を掲示した。</p> <p>⑤下記(活動計画の実施状況)の通り</p> <p>⑥-1 計画的に授業を展開し、パソコン検定やとくしま技能検定を受けることができた。</p> <p>⑥-2 リモート授業を長期休暇中を各学年3回以上実施することができた。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>I) 個別の指導計画や個別の教育支援計画を有効に活用して教育活動を展開し、効果を上げることができた。</p> <p>II) 高等部だけでなく学校の教員全体で高等部卒業後の進路先情報等を共有し、教育活動に活かすことができた。</p> <p>III) 学校の研修計画について会議等で共有し、積極的に授業参観や研修会に主体的に取り組むことができた。</p> <p>IV) ミドルローダー研修などにおいてICT機器機器を活用した授業研修を実施するとともに、タブレット端末に関する研修会等を実施することができた。</p> <p>①-1 中学部の生徒にはTTAPを4月～6月に行い、小学部の転校生には新編K式発達検査を10月に行い、客観的な実態把握を行った。</p> <p>①-2 個別の指導計画の年間目標及び前期・後期の学期目標としてアセスメントに基づく目標を3～8個設定した。(4～5月・9月・11月)</p> <p>①-3 個別の指導計画に関するケース会で目標と手だてを確認し、学部で共有した。</p> <p>①-2-1 指導の経過について、進捗状況等を見直しケース会等で報告し、目標や指導の見直しを行い、共通理解を図った。(7月・12月)</p> <p>①-2-2 設定した目標に対する評価を行った。(8～9月・2～3月)</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>①個別の指導計画立案時に客観的なアセスメントの結果に基づき学期目標をケース会等で確認することで、意識してたくさん立案することができた。芽生え領域の目標設定であり、その領域の幅も広く、その分、前期の学期目標の達成率は低くなってしまった。しかし、後期も継続して取り組むことで達成率が向上した。</p> <p>②1年生、2・3年生、それぞれアセスメントの実施、確認をそれぞれの時期に実施することができた。学部会等で個別の指導計画の目標立案時に周知することで、結果に基づき課題を目標として設定することができた。1年生については、アセスメント実施後の後期目標に、2・3年生については、前期目標・後期目標それぞれに設定されていた。ケース会時には、担任からの説明が適切にされたこと、個々の生徒に応じた適切な手だてにより、達成となる割合が高かったと考えられる。</p> <p>③手引きの活用を積極的に声かけたことにより、教員の作成スキルが向上した。</p> <p>④今年度は新型コロナウイルス感染症の影響が大きく出ることなく、進路研修会や就業体験を従来通り実施することができた。特に、校外での現場実習を昨年度より多く設定できたため、進路選択の幅をより広げることができた。</p> <p>⑤本校への就学・進学に直接関わる相談は少ないが、今後も特別支援教育巡回相談を充実させることで、就学・進学する郡内の児童生徒数が増えることを期待したい。それに伴い、地域の保護者に手渡すことのできた「ひわぶんだより」の意味が大きかったと思われるが、校務の負担を考慮して今後は本校ホームページの充実を課としても努力していきたいと考える。本校が主催する公開研修会においても、感染症予防の観点から近年はリモートで開催され、参加する人数は増えているが、感染症予防対策をとりながら来校しての研修にも少しずつ戻していくことで、本校の教育活動の理解啓発につなげたい。</p>	<p>キャリア教育を学校の教育活動全体を通して推進することができ、かつ、中学部からの早期の職業教育も充実している。</p> <p>教員の専門性向上に関して、学校コンサルテーションなどを活用し、一人一人のニーズに合わせたポジティブな行動支援が根付いてきている。個別の指導計画等についても計画通り実施できており、RPDCAサイクルでの改善充実も図ることができている。</p> <p>ICT機器の活用に関しても、リモート授業などを計画的に実施できており、GIGAスクール構想に基づいた取組ができており、RPDCAサイクルでの改善充実も図ることができている。</p> <p>ICT機器の活用に関しても、リモート授業などを計画的に実施できており、GIGAスクール構想に基づいた取組ができており、RPDCAサイクルでの改善充実も図ることができている。</p> <p>①特別支援学校において教育活動の中心となる個別の指導計画の立案に際しては、今後も年度当初に客観的なアセスメントを行い、児童生徒の実態に応じた目標設定ができるよう取り組んでいきたい。今年度は現段階では目標の達成率が低い結果となってしまった。その要因として、目標の数が多いため指導が十分できなかったことや芽生え領域の中でも目標が高すぎたことが考えられる。この点についてもケース会等を通して改善を図っていきたい。</p> <p>②高等部においては、個別の指導計画とアセスメント、就業体験指導計画の3つの関連性がとても重要であると考える。アセスメントからの課題のみにとらわれ指導計画の目標設定をすると、卒業後の生活に必要なスキルの獲得のための学習機会が少なくなってしまう可能性があるのではないかと懸念。個々の生徒について、実態把握をすすめるなかで卒業後に必要なスキルについて検討し、アセスメント結果との関連を考慮しながら個別の指導計画の目標立案を考慮していく必要がある。そのために、個別の指導計画の目標立案時に学部教員に周知する機会設定が必要である。</p> <p>③次年度への課題としては、「個別の指導計画」において、書式や項目が各学部で異なっている箇所があるため、統一した方がいいところを精選する。方策としては、手引きで各学部を見比べて、会議で図る。</p> <p>④進路指導・児童生徒の実態やニーズを十分に把握することに努めながら個々に応じた進路指導を実施していきたい。</p> <p>・進路指導や進路に関わる情報を保護者や関係機関に発信していきたいと考えている。HPに情報を掲載しながら、見ていただける機会を増やしていきたい。</p> <p>・人権教育・人権研修会への参加を増やし、資料回覧や内容等の報告を継続する。校内研修会の充実を図る。</p> <p>⑤社会人講師(PT・OT)の指導を年間4回行ったが、指導を受けてからの次の指導までの期間が短く、担当教員の指導期間が十分確保できなかったり、生徒に変化が見られなかったりした。そのため、次年度は年間4回の指導を3回に減らすことで、担当教員が十分な指導を行えるようにしたいと考える。学校コンサルテーション、特別支援教育「地域まるごと専門性向上事業」では、3事例の指導に関してアドバイザーを受けた。指導実践者だけでなく、学部内の教員の専門性向上につながる研修となった。次年度も学校コンサルテーション等での事例研究を行うことで教員の専門性や問題解決力の向上をめざす。</p>

		<p>2-1 新入生は、実態に応じたアセスメントを実施する。 2-2 2・3年生は、1年次に実施したアセスメントの結果に基づいた実態把握を行う。 2-3 アセスメントの結果から出た課題を前期目標または後期目標に、一人につき2個設定する。 2-4 前期目標ケース会、後期目標ケース会において、個々の生徒のアセスメントからの課題が設定されている確認し、共通理解を図る。</p> <p>3-1 「個別の指導計画」の入力締め切り日までに、手引きにある作成の手順や文書の統一について確認するよう全体周知する。 3-2 ケース会に手引きを持参し、記入の仕方について合っているかどうか確認する。 3-3 管理職に、手引きに沿った記入の仕方ができているかどうか聞く。</p> <p>4-1 各学級の実態や進路別セルフチェックリストから出た課題を学習内容に入れ、授業を行う。 4-2 はたらく体験学習の事前学習で、将来の進路希望について生徒アンケートを取り、それぞれの進路希望に必要なスキルや態度について伝えるようにする。 4-3 人権の出張等で研修した事や資料等を配布する。</p> <p>5-1 社会人講師(P・T・O・S)の指導を受ける機会を設定し、指導後は学部会で指導内容を報告する。(P・T・Oによる指導は年間4回ずつ、Sによる指導は年間3回実施予定) 5-2 社会人講師(P・T・O)による校内研修会を実施し、生徒の事例の共通理解や身体の動きに関する専門的な研修を行う。 5-3 学校コンサルテーション事業において、専門家からの指導内容を職員会議で報告をする。 5-4 特別支援教育「地域まるごと専門性向上事業」において、校内の事例検討ができる場を設定し、専門家よりアドバイスを受ける。</p> <p>6-1 検定に向けて授業計画を立てて週1回以上実施する。 6-2 学部それぞれにリモート授業計画を立てて実施する。</p>	<p>2-1 生徒の実態に応じて、6月～9月ごろまでにアセスメントを実施することができた。 2-2 各担任がアセスメント結果を確認し、個別の指導計画立案時に参考にする等実態把握ができた。 2-3 1年生は主に後期目標に、2・3年生は前期目標及び後期目標にそれぞれ一人につき2個～6個設定することができた。 2-4 前期目標ケース会、後期目標ケース会において、アセスメントからの課題がそれぞれの生徒について設定されているか確認し、共通理解を図ることができた。</p> <p>3-1 「個別の指導計画」の入力締め切り日までに、手引きの作成手順について全体周知できた。 3-2 ケース会に教員全員が手引きを持参することができ、それを見ながら記入の仕方を確認できた。 3-3 管理職の回覧を終えた個別の指導計画を確認できた。</p> <p>4-1 就業体録の目標として進路別セルフチェックリストで出た課題を設定する等、学習内容に取り入れながら活用することができた。 4-2 事前学習時に進路希望のアンケートを実施した。高等部の就業体験や作業の授業風景を紹介しながら、アンケート結果を踏まえて話しをすることができた。 4-3 研修会資料の配布や回覧と出張報告を人権通信にまとめて掲示した。</p> <p>5-1 PTによる指導(計4回) 5/26 9/29 11/24 2/16 OTによる指導(計4回) 5/19、9/8、11/26、2/9 STによる指導(計3回) 6/9 10/28 1/26 部会で毎回共有した。 5-2 PTによる研修会は児童生徒への直接指導を希望する相談件数が多数のため、研修会としての来校時間を相談時間に充てる。OTによる研修会は11月25日に実施する。 5-3 第1回 7月15日事前に各学部で事例に関して共有(ケース会を実施)した。 第2回 12月19日全体研修会を実施。事例研究終了後に職員会議で成果報告 5-4 8月29日 同事業の公開研修会を実施。午後から校内の事例に関しての教育相談(全体研修)を実施</p> <p>6-1 週1回以上学習の時間を設け、検定を受け、それぞれのスキルアップにつなげることができた。 6-2 学部それぞれにリモート授業計画を元に年3回以上実施することができた。</p>	<p>6年度当初にリモート授業計画を立てることで、計画的に実施することができた。授業の中でタブレットを使う頻度も増え、児童生徒のスキル向上も見られた。</p>	<p>6アプリや新しい使い方等の教員のスキルアップのため、希望職員研修や研修等の広報活動を積極的に行う必要があると感じた。</p>
<p>地域とともにある学校づくり</p>	<p>(全校レベル) I) 地域と連携した教育活動の推進 II) 地域交流及び地域貢献活動の推進 III) コミュニティスクール制度を軸とした学校運営</p> <p>(下位組織レベル) ① 学校間交流等の交流活動を通して、ひわさ分校の教育活動や児童生徒についての理解啓発を行うことができる。 [生活課] 2 感染症等の感染対策を行いながら、地域に向かい活動する機会を可能な範囲で設定し、生徒の経験の幅を広げていけるが、学校で学習したことを学校以外の場でも一般化できるよう取り組む。 [小中学校] 3 地域貢献活動を通して、社会性を養い、継続して地域とのつながりを持ち、地域への理解啓発につなげる。 [高等部] 4 特別支援教育巡回相談員活動等を通して、地域のセンター的機能を充実させるとともに、本校の教育活動についてアピールする場を増やす。〔支援課〕</p>	<p>評価指標 I) 地域と連携した教育活動を計画的に実施することができる。 II) 地域との居住地校交流の他、地域の小中学校との交流及び共同学習や地域貢献活動を計画的に実施することができる。 III) コミュニティスクール制度を活用した取組を推進することができる。</p> <p>①-1 新型コロナウイルス感染症対策を念頭に置き、安心安全に学校間交流が行えるように交流校と共に活動計画を立て実施する。 ①-2 生徒同士が主体的に交流が行えるように授業を通してコミュニケーションの幅を広げられるような指導を行う。 2-1 新型コロナウイルス感染症状況を踏まえて、感染予防を行い、校外での活動を年間3回以上実施する。 2-2 相手校と相談して実施の方法を工夫して、日和佐中学校及び阿南支援学校中学校との学校間交流を年間1回以上実施する。 2-3 希望のあった生徒について、居住地校交流を各生徒につき年間1回以上実施する。 3-1 新型コロナウイルス感染症の状況をみながら、地域貢献活動を年間2回実施する。 3-2 地域の小中学校に花の苗を配布する。 4-1 特別支援教育巡回相談員活動において、就学・進学に関わる相談が昨年度(1件)より増える。 4-2 地域の教員や保護者、関係機関の方が50名以上参加する公開研修会等を実施する。 4-3 「ひわふんだより」を配布(3回以上)したり、ホームページで研修案内・報告を充実させること(更新5回以上)で本校の教育活動について知らせてもらえる機会を増やす。</p> <p>活動計画 I) 居住地校交流や学校間交流を年間計画に沿って実施する。 II) お接待活動、地域貢献活動を年間計画に沿って実施する。 III) 学校運営協議会を計画的に実施し、学校運営等に反映させる。</p> <p>①-1-1 交流校の担当者を通して、お互いの学校の情報交換を行う。 ①-1-2 新型コロナウイルスについての情報を取り入れ、地域、学校、生徒にあった活動内容を計画し、実施する。 ①-2-1 学部活動や全校集会の活動を通して伝える力、聞く力、自他を尊重する力を身につける指導を行う。 ①-2-2 交流前に事前学習を行い、交流校の生徒や活動内容を知る。 ①-2-3 交流後に事後学習を行い、活動の振り返りや今後の目標を立てる。 2-1 感染状況や生徒の体調、季節等を考慮して、校外学習を計画実施する。(校外学習、お接待事業、遠足他) 2-2 相手校(日和佐中学校、阿南支援学校)と学校間交流の打ち合わせを行う。 2-3 居住地校交流(牟岐中学校・日和佐中学校)との交流の打ち合わせを行う。 計画に沿って、学校間交流、居住地校交流を実施する。 3-1-1 粟王寺において、お接待活動や清掃活動を行う。 3-1-2 地域の施設に作業学習で栽培した花のプランターを置く活動を行う。 3-2 作業学習において、花の苗を栽培したり、分校のPRチラシを作成したりする。 4-1 広報活動等において、「地域の特別支援教育コーディネーターと連携し、就学・進路先で悩んでいる保護者と繋ぐ。 4-2 案内チラシの配布や地域連携協議会等での広報を積極的に行う。 4-3-1 本校の教育内容について写真と文章で記載した「ひわふんだより」を海部郡内小・中学校に在籍する特別支援学級児童生徒の保護者に配布する。 4-3-2 特別支援教育公開研修会の申し込み、及び事後アンケートを本校のホームページ上に専用フォームを作成する。</p>	<p>評価指標の達成度 I) 地域と連携した事業や教育活動などを計画的に実施することができた。 II) 地域との居住地校交流や地域の中高との交流及び共同学習、お接待などの地域貢献活動を計画的に実施することができた。 III) 前年度から準備した学校運営協議会を計画的に実施し、コミュニティスクール制度を活用した取組を実践することができた。 ①-1 本校と交流校との事前の話し合いの中で、新型コロナウイルス感染症対策について共通理解を図り計画を進めていくことができた。 ①-2 全校集会や各学部集会を通して、自分の思いを伝えたり、相手の思いに気づいたりすることの大切さを伝えていくことができた。 2-1 沢活動、川活動、B&G部による体験学習、お接待事業の校外学習を実施した。 2-2 阿南支援学校中学校との学校間交流を7月8日に実施。日和佐中学校との学校間交流は11月17日に実施。 2-3 日和佐中学校との居住地校交流は1回、牟岐中学校は4回(内2回はリモート)実施。 3-1 計画通り、6月・12月の2回実施することができた。 3-2 計画通り、由岐小学校・由岐中学校に行き、花の苗を配布することができた。 4-1 就学・進学に関わる相談件数は0件(10月末)。ただし、教育相談に繋がっている児童が本校の学習体験に参加する等の繋がりはある。 4-2 ひわさ分校公開研修会(Zoom)校外参加者：28名 「地域まるごと専門性向上」事業公開研修会(Zoom)校外参加者：94名 4-3 「ひわふんだより」の発行・配布を2回行った。ホームページでの研修案内(更新)は2回実施したが、研修会の事後報告は実施できなかった。 3 新型コロナウイルス感染症の流行はあったが、感染症対策を十分行い、計画通り活動を実施することができた。 I) 居住地校交流や地域の日和佐中学校、海部高等学校との交流及び共同学習を効果的に実施することができた。 II) お接待活動の他、日和佐道の駅や地域の小中学校に花のプランターを設置する地域貢献活動を年間計画に沿って実施することができた。 III) 初めての取組である学校運営協議会を効果的に実施することができ、ひわさ分校の課題を共有し、課題解決を図ることができると、学校運営に反映させることができた。 ①-1-1 交流校との事前打ち合わせや電話、FAXでのやりとりをして情報交換を行った。 ①-1-2 海部高等学校や日和佐中学校との交流を行った。(7月、11月)ひわさ分校作品展を開催した。(1月～3月) ①-2-1 学部活動や全校集会の活動の中で、自分の経験を話したり友だちの話を聞いたりする機会を設けた。 ①-2-2 全校集会や学部集会を通して、交流を行う学校に関する情報や活動内容を知る機会を設けた。 ①-2-3 流後に振り返りを行い、交流校の生徒へ感謝の手紙を書いて送った。 2-1 沢活動(6月13日)、川活動(7月20日)、B&G部による体験学習(10月25日)お接待事業(10月28日)を計画、実施した。今後、お別れ遠足を計画、実施する予定。 2-2 日和佐中学校、阿南支援学校と学校間交流の打ち合わせを5月、6月10日に行った。 2-3-1 牟岐中学校及び日和佐中学校との交流の打ち合わせを5月に行った。 2-3-2 計画に沿って、学校間交流、居住地校交流を実施した。 3-1-1 6月、10月、12月にそれぞれ粟王寺周辺の草坂さやゴミ拾い等の清掃活動を実施した。 3-1-2 6月、12月に1回ずつ、日和佐公民館、日和佐道の駅に花のプランターを設置することができた。 3-2 作業学習において、プランターへの花の定植や栽培管理等を行うことができた。また地域の学校への花の苗の配付時に合わせて、PR用のポスターの制作ができた。 4-1 特別支援教育巡回相談員が主体となって実施した。「特別支援教育巡回相談員活動」及び「ひわさ分校公開研修会」の案内チラシを海部郡小・中学校教育研究会、3回地域連携協議会等で積極的に配布した。 4-2 「ひわふんだより」を5月、6月に2回配布した。9月にも発行予定であったが、できていない(今後放課後活動・行事についての内容を掲載予定)。 4-3-1 「ひわふんだより」を5月、6月、1月に3回配布した。 4-3-2 夏季休業中に公開研修会を2回実施(8/22、8/29)し、参加申し込み、及び事後アンケートを本校のホームページ上に作成し、活用した。</p>	<p>総合評価 (評定) B (所見) ①今年度は新型コロナウイルス感染症対策の影響から運動会や文化祭で他校との交流はできなかったが海部高校との演奏会を通して交流や日和佐中学校とのポッチャを通して交流を行うことができた。少しずつ以前に形に戻りつつあると実感している。 本校児童生徒に対しては、コロナ禍の影響で人とのコミュニケーションが希薄になっていることが課題と感じ、全校集会や学部集会を通して人とかわかる経験やコミュニケーション力を高める指導を行ってきた。 25年以上実施できていなかった日和佐中学校に向かいでの学校間交流を今年度は実施することができ、ポッチャの活動を通して生徒同士が直接関わることもできた。また、昨年度実施できなかった阿南支援学校との学校間交流も実施でき、同じ年頃の特別支援学校に通う生徒と関わる機会を設けることができた。校外学習にもたくさん出かけることができ、学校ではできなかった経験ができた。また、校外での活動を通して、日頃学校で学習していることが一般化できるか確認する機会となった。 3 新型コロナウイルス感染症の流行はあったが、感染症対策を十分行い、計画通り活動を実施することができた。 ④特別支援教育巡回相談員活動の実績としては、本校への就学・進学に関わるケースは少なかったが、教育相談に関わった過去のケースで学校見学に繋がる等の成果は見られている。感染症予防のために来校しての研修はできなかったが、リモートの研修を計画・実施し、センターの機能として、地域の教員等に専門性の向上に繋がる学びの場を提供することができた。本校の教育活動について地域の教員や保護者に情報発信する手段としてホームページの更新が進まなかったが、直接保護者に配布する「ひわふんだより」を配布できた。</p>	<p>①今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、ビデオ交流やリモートでの交流から、互いの学校を生き来し、演奏会やポッチャ等活動を通じて交流することができるようになった。実際に対面して交流を行うことで、児童生徒にも良い経験になり学習効果も上がったように思う。課題点としては、事前学習や事後学習で深い学びを提供することができなかった。反省をいかに来年度につなげていきたい。国や県の方針や世の中の状況を踏まえた上で、より深い交流ができるように計画をし、学校間交流等の交流を実施していきたい。 運動会や文化祭への参加や観戦についてもできる範囲でその幅を広げていきたい。また、ひわさ分校作品展を通して本校児童生徒の作品を地域の方に見てもらい、間接的な交流も積極的に行っていきたい。 2 学校以外での活動は、児童生徒が楽しみにしている学習活動であり、それにむけて意欲的に学習したり、日頃学校で学習したことがどれだけ身につけているのかを確認したり、学校では気がつかない課題に気づいたりすることができる大切な活動であると考えた。また、交流及び共同学習では、同じ年代の他校の生徒と関わることでたくさんの刺激を得ることができ、視野も広がると思われる。 今後は、センター的機能を果たす中でひわさ分校の取組を発信したり、美波町以外において、ひわさ分校の児童生徒が活動できるような機会を持ったりする。SNSを活用した発信を行ったりすることを通して、双方向でのやりとりを推進することを期待している。 3 校外において、地域施設の清掃活動や花のプランター設置、花の苗の贈呈等の活動をするのは、分校のことを知ってもらえるよい機会となる。また生徒にとっても、事前の準備や当日の活動を通して、分校のことをPRしようという意識が高まってきており、継続的に取り組んでいくことは効果があると思う。 課題としては、活動内容が固定化しているため、今後は活動が地域において、また生徒にとってもよりよいものになるように再検討する必要があると感じている。そのために活動内容について、生徒がもう少し主体的な活動ができるよう、生徒と一緒に検討できるような機会が取れたらよいと考える。 4 本校への就学・進学に直接関わる相談は少ないが、今後も特別支援教育巡回相談員を充実させることで、就学・進学する郡内の児童生徒数が増えることを期待したい。それに伴い、地域の保護者に手渡すことのできた「ひわふんだより」の意味は大きかったと思われるが、校務の負担を考慮して今後は本校ホームページの充実を課としても努力していきたいと考える。 本校が主催する公開研修会においても、感染症予防の観点から近年はリモートで開催され、参加する人数は増えているが、感染症予防対策をとりながら来校しての研修にも少しずつ戻していくことで、本校の教育活動の理解啓発につなげたい。</p>

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった